



題字：細木 秀美 仁生会理事長

特定医療法人仁生会情報誌 <http://www.jinsei-kai.com>

発行300号 記念特集

「じんせい300号に寄せて」

細木 秀美	特定医療法人仁生会理事長
濱田 義文	仁生クラブ会長、元細木病院名誉副院長
橋本 浩三	細木病院院長
松田 勇蔵	細木病院名誉副院長
細木 膺子	仁生会本部長
宮地 耕一郎	細木病院事務部長
松井 慶子	元細木病院栄養管理室長
中屋 公子	元細木ユニティ病院看護部長
西内 清江	元土佐看護専門学校副校長
周藤 春男	元細木病院広報課長
高橋 秀幸	(有)積善会社長
横田 陽誠	元細木病院広報課長
鳴瀧 有人	三愛病院総務課
木下 浩一	じんせい編集事務局
山下 裕二	(株)高知新聞総合印刷営業部
片岡 美幸	(株)高知新聞総合印刷制作部

飛鵬（「じんせい」の前身の院内報）

じんせい年表

じんせい題字変遷

〔記念すべき第1号のタイトル〕



特定医療法人仁生会
理事長 細木 秀美

「じんせい」発刊300号を迎えて

特定医療法人仁生会は、1946年7月1日、細木診療所として、高知市西町の現在細木ユニティ病院がある場所で産声をあげました。私の父、細木高行が第二次世界大戦で軍医として召集されて激戦地ビルマでの従軍から復員後、高知市の焼け野原の一角、西町にあった祖父の自宅を改装して診療所を始めました。1955年には細木病院へ、1958年には医療法人仁生会となりました。その間、少しずつ病棟を増設しました。また、1964年に土佐看護専門学校の前身、土佐看護学院を開設、1975年には三愛病院を高知市一宮に開設しました。

1986年6月25日、創立者

1月号 (No.1)
医療法人仁生会
細木病院
三愛病院
院内報
(題字 細木美智子さん)

で初代理事長、院長として敏腕をふるっていた細木高行が大動脈瘤の破裂によって急逝しました。その時の細木病院は11床になっていました。急遽、私が三愛病院から細木病院の院長となりました。それまでは患者様の治療に専念しておりましたが、それ以来、経営と運営に全力を注ぐことになりました。しかし、損益計算書や貸借対照表などは今まで見たこともありませんでした。しかも、三愛病院から細木病院の院長として着任した時には職員の名前もほとんど知らず、本当に苦労しました。毎年新しく入られる多くの職員の皆様も、その時の私と同じ心細い気持ちで仕事についておられるのではないかと考えました。何か職員同士で気持ちの判かり合える良い方法はないかと考え、発刊にこぎつけたのが院内報「じんせい」です。

当初は、高知新聞社の松岡正

一様のご紹介で周藤春男さんが編集長として赴任されました。専門家でしたが、職員の皆様が記事を書くことに慣れていなくて、原稿集めに本当にご苦労されておられました。紙面を一杯にする目的で編集長から頼まれて書き始めた「時事エッセー」が、何と現在まで続いており我ながら驚いております。当初「じんせい」の揮毫も誰からもいだけなくて、片麻痺で寝付いていた母に頼みましたところ、喜んでくれて、一生懸命に稽古して書いてくれました。最初の1年間余りは母美智子の揮毫が紙面を飾りましたが、そのうちに幹部職員の皆様が交代で書いていただけるようになりました。

また、当初の紙面はB5判の単色刷りで発行しましたが、やがてA5判のカラー印刷の綺麗な紙面になり、さらに活字もより大きく読みやすくなつて、職員はもとより、患者様や多くの皆様に愛読されておりますことを大変嬉しく感じております。「じんせい」の紙面が当初の職員間のコミュニケーションの目的から、地域の皆様健康と医療と福祉の最新のニュー

スなども届けられる紙面となつてまいりました。これからも、ますます皆様にお役に立つ紙面を提供していきます。どうか宜しくご愛読の程、心からお願ひ申し上げます。

飛鷹

（「じんせい」の前身の院内報）



飛鵬に古きをたずねて

濱田 義文（仁生クラブ会長、元細木病院名誉副院長）



うちに懐かしさが込み上げてきた。そのひとつ、「クローズアップひと」に登場した先生方を紹介しよう。その後で「ワッハッハ」と豪傑笑い。患者

昭和54年から『飛鵬』

と言つ名の院内誌が発行されていたことを知る人も少なくはなかったが、先だ

て、飛鵬全巻1〜13号を読む機会に恵まれた。

創刊号で細木高行前理事長は、「本誌は病院と職員を結び、相互理解と人間関係を深め、よりよい病院人としての成長に意義あるものと信ずる。」と述べておられる。そのお言葉通り、現在も職員相互の心の広場として、その役割を果たしている。

そのほか、飛鵬には、その時々

の出来事はもちろん、人物、職場の紹介、随筆、旅行記など、職員の投稿も多かった。それだけに読み進む

術が千例を超える痔の権威。外来のスモールカット

一杯のコーヒードーが始まる。患者さんに優しい。傷口のガーゼを優しくあててくれるので、

はずしたくないと言つ声が聞かれる。

多田一義先生。県外にも名の知れた有名な先生。椎間板ヘルニアの手術も毎日数件。

忙しさのあまり小走りに歩く。大きな目玉をクルクルさせながら多田スマイル。

濱聡先生。患者さんの気持ち

を汲むことでは抜群。胃透視を



じんせい16号より「11病棟のスタッフ」前列中央が濱田小児科部長（当時）

「じんせい」四半世紀

橋本 浩三（細木病院院長）



「じんせい」が記念す

べき300号を迎えました。25年間の長きにわたって仁生会に関する情報を患者さんや地域の医療機関などに発信し続けたこと

になります。300号全体に掲載されたものは大変な情報量で、これらを見れば1987年以降の仁生会の歴史がすべて分かるものと思います。

私は細木病院へ着任以来、広報委員として、毎月「じんせい」の編集に関わってきました。「じんせい」はその時々

の仁生会のトピックスや仁生会を構成している各施設の歩みを広報するとともに、患者さんに役立つ情報を発信できるように編集されています。

また理事長の時事エッセーが毎号掲載されており、これが「じんせい」を大変親しみやすいものにしていきます。25年にわたって継続して毎月記事を書くことはかなり努力を要することだと思いますが、いつも時季にふさわしい話題を提供されていることに感心しています。

「じんせい」を読むことにより、仁生会の職員は仁生会内の自分の所属している施設以外の部署の情報を毎月得ることができ、新しい情報が広がりますので、「じんせい」は仁生会のメンバーとしての仲間意識を高めるのにも大いに役立ってきたものと思います。

私は9月下旬に米国の病院や施設を見学してきました。米国の病院でも病院長や施設の情報を地域に発信することが経営上

大変重要な課題であることと認識して、iPADでも情報を得られるように、病院の情報をどんどん発信しているようでした。我々の細木病院も「じんせい」を通じて地域の患者さんや中小病院、登録医の先生方に重要な情報を提供させていただいています。最近では日本でもインターネットで情報を得る人が大変多くなっていますので、今後は「じんせい」の継続はもちろんなこと、インターネットのホームページの内容を充実させ、新しい情報を広く発信していく必要があると思っています。

「じんせい」と共に

松田 勇蔵 (細木病院名誉副院長)



しております。

す。「じんせい」に関し

当初は発行の対象は患者さん、職員が主であったと思いますが、発行部数が次第に拡大し院外への情報提供の役割も多くなりました。仁生会OBの方はもちろん、院外の時などに、思わぬ方から「じんせい」の記事を話題にされることがあります。いろんなところで読まれていることを実感します。病院の発展に伴いその内容を充実させながら、「仁生会」の情

報誌として果たした役割は非常に大きいと思います。

歴史の長い「仁生会」は、第1世代の先生方がすべて退職され、今後も職員は次々変わっていきますが、「じんせい」が今後も情報発信の中心として継続発展されるよう心から期待しております。

「じんせい」が発行25周年と聞き、私は細木病院に来て26年が過ぎたところですので、ほとんど一緒に歩んできたことになり。25年前と言え、先代の理事長が急逝され、現理事長が細木病院の院長になられて間もないころで、浜先生や岡部先生ら各科のいわゆる第一世代の先生方がバリバリ診療されているころでした。

今でこそ情報誌は当たり前になっていますが、当時としてはいつまで続くのかと正直思いました、その頃に専任のスタッフを入れて「じんせい」を発行されたのは今から思えば、さすが理事長は先見の明があったと感心



じんせい128号より

300号も続いた「じんせい」

細木 膺子 (仁生会本部長)



今では考えられないようなことで、先駆者は大変な苦勞を沢山されました。お陰で空いていた紙面の補充のために書き始めた、細木秀美理事長の「時事エッセー」が何と今も続いていて、楽しみに読んでくださっている方がおられることは本当にありがたいことと思います。最近紙面がとも充実し、発行日も早くなっています。

昭和61年6月25日に初代理事長が急逝したため、急遽、細木病院に戻ることに、病院の多くの職員との意思疎通を図る手立てとして発刊したのが院内報「じんせい」でした。

初代の周藤春男編集長は、毎月の記事集めに大変ご苦勞されました。横田氏、故蒲原氏、都司氏、鳴瀧氏、中村氏そして現在木下氏。25年の歳月中、記事が集まらなくて一度だけ発刊しなかつたこともありましたが、休刊したのを残念がってくださる方もおられ、「じんせい」を待ってくださっている方もいらっしゃるのだと嬉しく思ったことでした。

25年前の初刊の「じんせい」の題字を義母「初代理事長細木高行の妻、美智子」が不自由な身体で、筆を持ち一生懸命練習していた姿が、ほんのこの前のように懐かしく思い出されます。今では職員の皆様は勿論、地域の方々にも愛読していただける院内報として充実してきていると感じ



じんせい20号より「時事エッセー」スタート

1/4世紀を繋げて…、そしてこれからも

宮地 耕一郎（細木病院事務部長）



写真を多くしたり、文字も大きくしたり、外来担当医表を差し込み式にしたり、試行錯誤してきました。

記事も多くなってきたように感じています。現編集陣の奮闘に敬意を表したいと思います。色々な人の手を繋げながらの情

仁生会情報誌『じんせい』が300号を迎えました。

在宅の通所サービスの利用者様の許可を取り扱ったまま写真を掲載してしまい、印刷し直したこともありまして。記事集めには、いつも苦勞しました。常に、情報が入ってくるようにアンテナを高くしよう。人間関係

300号と言えば、1/4世紀。『じんせい』の発行に関わったものとして感慨深いものがあります。

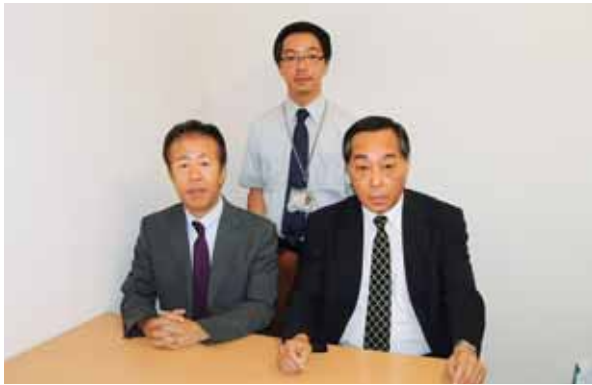
最後に、長年にわたって、校正や印刷にお世話になっていきます高知新聞総合印刷に心から感謝申し上げます。

私が『じんせい』の編集に関わったのは企画管理部長時の平成16年から平成22年までの約6年間になります。その間

「好奇心を」と持とうと編集担当者に言い続けていたことを思い出します。

色々なことが思い出されます。現在は発行部数2,700部（内3/4が院外）ですが、当時、発行部数はもっと少なく、社内報的色彩が強かったように思います。もう少し、社外への情報発信力を高めようと、記事の内容や書き方にいつも悩んだ記憶があります。また、

最近執筆者も多彩になり、また、診療内容に関する



平成21年当時のじんせい編集事務局のメンバー（左から、宮地耕一郎、中村泰規、深田哲也）

300号を振り返って

松井 慶子（元細木病院栄養管理室長）



昭和62年1月、初代理

の活動が掲載された。

昭和62年1月、初代理事長夫人である細木美智子奥様の揮毫を題字とし、昔の「飛鵬」をリニューアルした「じんせい」創刊号が発行されて以来、記念する300号を祝い、この貴重な情報誌を振り返ってみたい。

平成15年定年退職後も、仁生会クラブのご縁で毎月送付いただき、後輩の活躍や仁生会グループの活動的な情報を楽しみに拝読しております。

一方、ホームページでは、仁生会グループの豊

富な情報に触れることができる。細木ユニティ病院栄養管理室を開くと患者様やご利用者様への療養生活の快適性、豊かさへの配慮がビジュアルに紹介され、調理師・調理員の意欲的な取り組みと多大なる努力に対し感動している。

歴代広報担当者に感謝し、益々のご発展を祈念いたします。

職場めぐりコーナーで、当時スタッフ総勢29名の細木病院栄養課が第8号3面に写真入りで紹介された。各職能域の方針や内容等活動状況がよく分かる。

7面の随筆リレーも毎号楽しみだった。私も第9号で「師匠の初負け」と題し掲載させていただいた。25年も前のことになる。とても懐かしく若



じんせい8号より「職場めぐり」

病院と地域をつなぐ懸け橋

中屋 公子（元細木ユニティ病院看護部長）



院の精神科を分離し、細木ユニティ病院が開院し

ました。高坂院長を中心として、当時の山崎事務長や

スタッフが何とか細木ユニティ病院を理解してい

ただこうと頑張りまし

た。音楽療法コンサート

の市民への公開も「じんせい」を通して案内して

もらいました。おかげさ

まで一般の方も自由に参

加していただくことがで

きました。

細木ユニティ病院は、

当初は南側が玄関でした

が、平成13年に新館が完

成すると、玄関が北側に

なりました。保育園の前

というところで、保護者の

方々が心配されたようで

すが、高坂院長が説明す

ることで理解していただ

きました。今では、病院

のクリスマス会やユニ

ティ祭に園児が来て、患

者さんの前で歌を披露し

てくれたり、コンサート

にも参加してくれるよう

になりました。

平成14年4月から2か



「じんせい」と「土佐看」

西内 清江（元土佐看護専門学校副校長）



タタキ実習が好評でし

ました。平成22年最後の卒業

式と閉校式典では、これ

までの多くの卒業生、来

賓の方々のご出席をいた

だき盛大に挙行され、45

年の歴史に幕が下ろされ

た様子は忘れられま

せん。

また、「じんせい」

の題字を書かせてい

ただいたことと、日

本看護連盟本部の特

別表彰を受賞したこ

とが「じんせい」に

掲載されたことは有

り難く良い思い出と

なっています。

退職しても毎月

「じんせい」を送っ

てくださるので、病

院の情報がよく分

かり、病院との連帯

を感じます。外来担

当医表も有り難い

です。何年か前の新年

号の鶴の写真もて



紹介しやすく、助かりま

す。

平成9年4月に細木病

院の精神科を分離し、細

木ユニティ病院が開院し

ました。高坂院長を中心

として、当時の山崎事務

長やスタッフが何とか細

木ユニティ病院を理解し

ただこうと頑張りまし

た。音楽療法コンサート

の市民への公開も「じん

2005年 土佐看護専門学校入学案内より



2007年 土佐看護専門学校入学案内より



色選びの悩みも昔話に

周藤 春男 (元細木病院広報課長)



を稼いだのは、これが最初で最後かと思えます。

小生は5年余りで、後継は横田陽誠氏と蒲原豊氏がリレーしてくれ、伝統やスタイルなど守って

四半世紀を刻んだ300号、おめでとうございます。「じんせい」創刊に携わったスタッフの一人として感慨深いものがあります。小生が携わったのは5年間余りでしたが、創刊当時は情報も少なく、スタイルも決まらず、試行錯誤の毎日でした。印刷用紙は最初から単色カラーと決めスタートしたのですが、この色決めが悩みの種でした。

毎号変えているうち、濃いオレンジの派手な紙面になり、不評を買ったことも。苦い思い出です。50号記念の時に広告(1件3,000円)を募集したところ、多くの会社、取引先などから応募があり感激したもので「じんせい」がお金



禁煙も『じんせい』のおかげ

高橋 秀幸 (有積善会社長)



情報誌「じんせい」300号記念特集の発刊、おめでとうございます。

私は「コレ」で煙草をやめました。「コレ」とは「じんせい」です。平成12年2月号の新人紹介欄で「じんせい」にデ



ビューした私は、同年6月号の医療相談コーナーで、ニコチン・パッチの存在と肺気腫の脅威をはじめで知りました。自分のことはさておき、早速、友人に禁煙外来を紹介しました。しかし、受診を自分から申し出た彼でしたが、強固な意思をもって愛煙家ぶりは衰えることはありませんでした。その後、何度か同コーナーでは肺がんと喫煙の関係についての掲載があり、「ガンとタバコ」と題した細木理事長の時事エッセー欄にて、ご親切にもデータ入りで愛煙家に警告を寄せられていました。意志の弱い私は、恐れをなし、今度は、自分自身が北川先生の禁煙外来を訪れました。そして遂に、私は、1日30〜40本の喫煙人生に終止符を打つことができました。感謝！感謝！です。

「じんせい」は、病院の月刊情報誌として、一般の読者にも親しみやすい内容で構成され、いつも感心しながら愛読しています。仁生会を取り巻くそれぞれの時代の社会環境をも振り返ることができ、わが社、積善会でも、歴史的情報伝達価値もあり、非常に興味深く貴重な資料となっております。平成20年6月号からは、積善会も専用スペースを頂戴し、広告も兼ねて各種業務をご案内させていただきます。

何事にも通じることでありますが、「継続は力なり」。四半世紀にわたり、豊富で意義ある内容を備えた「じんせい」を担当されてきた歴代の編集委員に「職員栄誉賞」を推挙いたしたく思います。今後

も50号、1,000号と後継者に伝えていっていただきたくお祈り申し上げます。

「じんせい」は、病院



◆看護師の伊勢脇美香さんイラストでその才能を發揮。人物の顔を個性豊かに描いて紙面を飾る。看護学院25周年記念誌では発行委員14人のイラストが登場。今でも懐かしがられている。

◆積善会の野村眞造さん、先代院長の人となりや教えをもらうなど、病院の歴史を学ぶ。仁生クラブ創立の際には、会則の内容などでアドバイスをいただきました感謝。

病院の”姿・心”を発信

横田 陽誠 (元細木病院広報課長)



て、侃々諤々の議論を重ねたものでした。

光陰矢のごとしとか、歲月人を待たずと言われますが、「じんせい」も早300号達成ですか。月日の経つのは本当に早いですね。私は64号から103号まで編集をさせていただきました。節目の100号には、院内外の著名な方の座談会や寄稿文を載せた記念特集号を出しましたので、感慨深いものがあります。

「じんせい」産みの親である理事長は、非常に熱心で、度々広報課に足を運ばれ、「マンネリ化はいかん。斬新な紙面を」と、口癖のように言っておられました。このため、同僚の蒲原豊氏（故人）といつも新しい企画や連載物をはじめ、紙面構成の「要」でもある見出しやレイアウトなどについて、侃々諤々の議論を重ねたものでした。

5年間、創刊目的どおりに担当し一定の達成感を感じています。また、決められた発行日に遅れることもなく順調に編集できたことと確信しています。理事長のバックアップはもとより、各部署から選ばれた編集委員の協力、後押しがあったからこそです。委員さんには時々お叱りも受けましたが、精力的に情報収集され、記事も書いていただき大助かりでした。

「わが社の広報誌に掲載させてもらえんのか」「参考になる。本にして」等々の声が寄せられ、これぞ病院情報誌の「真骨頂」を示したものと誇らしく感じたことでした。













中でも、呼吸器内科のK医師は、現在のようになかった時代に、一足早く喫煙者にタバコの害を訴えました。そして、中四国の病院では初めての「禁煙外来」を新設。これが反響を呼び、地元新聞に大きく掲載されたのをはじめ、テレビなどの報道機関が相次いで取材に訪れ、一躍「時の人」になりました。おかげさまで私も禁煙できました。感謝の極みです。

加齢とともに医療情報誌への関心は高まる一方で、これからの「じんせい」であることを祈念いたします。

歴代編集担当者

「じんせい」

周藤 春男
(S62.1~H4.3)

平成3年	平成2年	平成元年	昭和63年	昭和62年
 (49号)  (51号)  (50号特集) B5判からA4判に紙面サイズ拡大	 (37号) 1月 仁生会憲章制定 印刷が高知印刷(現在の高知新聞総合印刷)に変更	 (31号) 8月 新しい(現行の)仁生会マーク作成  (32号) 山下総婦長退職特集号 印刷が高知印刷  (34号) 9月 仁生クラブ発定	 (20号) 8月 時事エッセー開始  (13号) 1月 新年号のみ表紙等一部カラー化	 (1号) 昭和62年1月25日 第1号発行 印刷は(尚四国写植)36号  (6号) 5月 三愛病院 第1回看護(健康)展  (2号) 2月 三愛病院 細木靖弘院長就任

初めての「ことばかり」で…



鳴瀧 有人 (三愛病院総務課)

鳴瀧 有人 (三愛病院総務課) でしたが、その大半は採用されずにまた考える…の繰り返しで苦労しました。

じんせい300号おめでとうございます。私が「じんせい」の編集業務を行っていたのは平成16年9月号から平成17年9月号の約1年間でした。その当時は、IT業務も担当していたこともあって、「じんせい」の編集もIT化して効率よくできるよう、色々な人のアドバイスをいただきながら考えました。そして、記事編集ソフトを導入することに、リアルタイムで編集レイアウトができるようになりました。

そんな中で実現したことは、全ページカラー紙面にして文字も大きく見やすいレイアウトにしたこと。病院食の紹介やお知らせのページなど院外向けの内容を作ったことです。さらに一番苦労したことは、写真です。今まで、あまり写真に興味がなく自分で撮ることを全くしていなかったのが初めはピンボケ写真ばかり撮っていたことを覚えています。でも、その甲斐あって平成17年9月にヘルスクエア情報誌コンクールという病院情報誌のコンクールに入賞したことは、本当にうれしかったです。

職員にとって「じんせい」は、グループ内の病院の出来事がよくわかる大事な情報源です。これからも、500号、1,000号と頑張ってください。

また、その年は今まで院内向けの広報誌としての編集していたものを院外に向けての内容にする編集方針が変わった年でした。その中でどうすれば院外の人々にPRできるかを試行錯誤しながら色々な企画を考え提案し

方々を教



じんせい226号より

横田 陽誠 (H4.4~H9.2)				
蒲原 豊 (H3.7~H16.8)				
平成8年	平成7年	平成6年	平成5年	平成4年
 (109号) (120号) (120号) 11月 細木病院 新館完成 12月 日高クリニック開院(菅原治院長) 仁生会50周年・じんせい10周年特集	 (100号特集) (97号) (104号) 8月 老人保健施設あうん高知開設 (100号) 4月 細木病院 中四国初の禁煙外来開始	 (85号) 1月 細木病院 タワーパーク完成	 (号外) (73号) (78号) (79号) 5月 土佐看護専門学校開校、土佐看護学院創立30周年 6月 細木病院 第1回病院フーズ 7月 細木病院 第1回糖尿病セミナー	 (61号) (67号) 7月 仁生会 連休と日割へ

じんせい 300 号の編集に携わって

木下 浩一（じんせい編集事務局）



前を出して、お礼を申し上げたいのですが、字数の関係上、書ききれなくして申し訳ありません。長い歴史のある「じんせい」には、その時々の方々の色々な人々様々な思い入れがあると思います。院内報から外向けの情報誌へ、単色刷りからカラー印刷へ、基本レイアウトなども時を経るにつれて変わってきています。私が平成22年9月号より担当になった際は、スケジュールを明確にして発行日を早めること。ドクターや病院・施設の紹介、診療科の取り組みについて、もっと情報発信すること。配布先・部数を適切に見直すこと、の3点を掲げて業務にあたりました。

まずは、現在の編集担当者として、編集にご協力いただいている皆さんにお礼を申し上げたいと思います。特に、細木病院の橋本院長、北川先生、遠近先生をはじめ、各病院の診療部の先生方には何度も原稿執筆をお願いし、そのたびに快く引き受けてくださり大変感謝しています。

また、細木病院薬剤室の小松さん、栄養管理室の橋本さん、音楽療法コンサートでは、細木ユニティ病院作業療法室の有光さんには毎回お世話になっています。ネタ集めに困っているとき、細木ユニティ病院の岡本看護部長がよく気にかけて情報提供をしてくださり、とても助かっています。これまで題字や原稿を書いてくださった全員の名

前を出して、お礼を申し上げます。情報提供がきちんとあるわけではないので、たまたま偶然耳に入っただけで確認したり、こちらから事務連絡会や診療運営会議等の資料を見せてもらって直接問い合わせたりで、いつも聞き耳を立てるようにしています。特に今年は、長い間連載されていたあつん高知通信が現場の都合で突如終了になり、1ページがすっぽり空いたため、ネタ集めの苦労に拍車がかかりました。また、原稿締め切り間際になって突然記事が飛び込んだり、原稿の文字数が予定と合わなかったり、毎度、紙面割りの組み直しがあります。理事長の時事エッセーは、毎月多くの方が楽しみにしていますが、やむを得ず休載にしたことも何度かありました。写真撮影も結構大変です。最初はピンボケよりもひどいブレだらけ。デジタルカメラの説明書を読み込

歴代編集担当者

「じんせい」

蒲原 豊
(H3.7~H16.8)

平成13年	平成12年	平成11年	平成10年	平成9年
 (177号)  (169号)  (178号)  (175号)	 (162号)  (157号) 5月 細木病院 日本医療機能評価機構から認定 院内報から情報誌へ	 (150号特集)  (145号)  (149号) 5月 細木病院 グループホームのびのび西町開設	 (133号)	 (121号)  (124号) 4月 細木ユニティ病院開院(高坂要一郎院長) 5月 日高クリニック 松本和博院長就任
8月 細木病院 よさこい祭り初参加 9月 三愛病院 増改築完成				



たいへん勉強になった「じんせい」

山下 裕一 (株)高知新聞総合印刷 営業部

じんせい300号おめでとうございます。私が「じんせい」の印刷営業を任されて早20年になります。当初は印刷のいろはも分からないまま先輩から引き継ぎ、緊張しながら営業をしていたのが懐

かしく思い出されます。最初は周藤様大変お世話になりました。現在はカラー印刷で発行していますが、当初は単色印刷でした。周藤様と、今月はこの色、来月はあの色とインキ見本帳を見ながら色選びによく悩みました。思い描いたような色にならず、納品に行く足取りが重たかったときもありました。

昔はパソコンなどがありませんでしたので、印刷紙を切り貼りしながら版下を仕上げていました。一度、間違った場所に貼って上司と始末書を持ってお詫びに行ったりもありません。また、メールなども普及していませんでしたので、ファクスのやりとりや直接、当社の制作課に来ていただき最終校正をしていただい

んで、あれこれ調節して、ようやくまともに撮れるようになりました。また、4月号で桜花の写真を載せようと城西公園等で夢中になって撮りましたが、やりすぎて足首を痛め、まともに歩けなくなり受診する羽目になりました。病院の外観撮影も簡単なようで、実は車や人影、日影などが極力写らないようタイミングが必要で、何度も撮り直し、駐車場の警備員さんにも迷惑をかけています。結局、休みのときなどに出

て来て撮ることもしばしばです。こうして集めた原稿と写真、データを高知新聞総合印刷さんに送り、レイアウトや色使いなど10回前後校正し、また、毎月第2水曜日開催の広報委員会において理事長や各病院の上層部の方々から色々指摘を受けて、ようやく「じんせい」が完成します。

現在の発行部数は2,700部。そのうち約1/4は仁生会グループの職員に、約3/4を外部に配布しています。その作業が終われば、ようやくホッと一息。新しくできた「じんせい」をめくりながら、今月もよく頑張った、いいのができた、と一人余韻に浸るのです。

この先、「じんせい」はどのように変遷していくのか。編集担当者として、また一人の読者として楽しみに見ていきたいと思います。

平成18年	平成17年	平成16年	平成15年	平成14年
<p>中村 泰規 (H17.10~H22.8)</p> <p>都司 博直 (H16.9~H17.8)</p> <p>鳴瀧 有人 (H16.9~H17.9)</p> <p>蒲原 豊 (H3.7~H16.8)</p>	<p>(229号)</p> <p>(230号)</p> <p>7月 仁生会創立60周年</p> <p>2月 ほろぎ東部クリニック移転オープン</p>	<p>(218号)</p> <p>(217号)</p> <p>文字サイズ拡大</p> <p>毎号オールカラー化</p>	<p>(205号)</p> <p>編集方針が院内向けから院外向けへ</p> <p>(200号特集)</p> <p>(193号)</p> <p>(201号) 9月 細木病院 山本博司院長就任</p> <p>(200号) 8月 細木病院 緩和ケア病棟設置 白山桂クリニック開院(長裕院長)</p>	<p>(181号)</p> <p>(184号)</p> <p>3月 仁生会が特定医療法人になる。中国短辺大学附属病院と提携</p> <p>細木ユナイテッド病院 広報紙「ゆてい」創刊</p>

たこともありません。今から思えば不便なところばかりでしたが、そのお陰もあり、紙面構成などについて、大変勉強させていただきました。私が「じんせい」の記事の中でいつも楽しく読ませていただいているのが細木理事長先生の時事エッセーです。誰にでも分かりやすく書かれてい

るのでいつも楽しく読ませていただいています。また、以前掲載されていた「わが家のスター」に出てくる子どもの写真も楽しく見せていただきました。本当に懐かしく感じられます。「じんせい」は、私の営業人生と共に歩いているようで、大変嬉しく思います。

今後も「じんせい」と共に歩んでいきたいと思えますので、よろしくお願いたします。また、編集に携わった皆様に御礼を申し上げますと共に今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

色使いやレイアウトの難しさ

片岡 美幸 (株)高知新聞総合印刷 制作部



じんせい300号おめでとうございます。

昨年7月号から「じんせい」の制作を引き継ぎ、最初は、レイアウトや配色に悩まされ悪戦苦闘しながらの制作でした。

1年半経った今でも、理想通りのレイアウトができません、時間だけが過ぎていくばかりで、編集担当者の木下様には、大変ご迷惑をおかけしている

ことと思います。しかし、配色やデザインにこだわりをもって編集していただき、校了のお返事をいただくたびに、今号も「じんせい」の制作に力を十分に出し尽くすことができましたと実感しています。仕上がりをみるたびに、「この記事はレイアウトが難しかった。」「この記事は頑張った制作した。」「次号ではもっと読みやすい色使いや見やすいレイアウトをしていけるようにしていこう。」「と毎号毎号、もっと頑張らなければと

反省をしています。また、貴院の新しい医療機器の記事やお薬についての記事、デイケアでの行事や写真など、制作しながらいつも勉強させていただいています。今後、「じんせい」をより素敵な紙面にするよう全力で制作していきたいと思しますので、よろしくお願いたします。

木下 浩一 (H22.9~)		中村 泰規 (H17.10~H22.8)			歴代編集担当者 「じんせい」
平成23年	平成22年	平成21年	平成20年	平成19年	
 (289号)  (296号) 12月 30号特集 表紙のデザインを一部変更 7月 仁生会創立65周年	 (277号)  (279号)  (280号)  (285号) 3月 土佐看護専門学校開校 4月 三愛病院 山本泰朗院長就任 外来担当表を繰り込みに変更 表紙のレイアウト等を一部変更	 (265号)	 (253号)  (256号) 4月 細木病院 橋本浩三院長就任 デザインを大幅にリニューアル	 (250号特集)  (241号)	

じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい
43～48号 (細木病院 整形外科部長) 多田一義	37～42号 (細木病院 副院長) 若原 作治	30～36号 (三愛病院 総務部長) 弘瀬 嘉	24～29号 (細木病院 総務部長) 山下 ムツ子	19～23号 (細木病院 事務部長) 細木 清	13～18号 (細木病院 副院長) 青山 信彦	1～12号 (仁生会理事) 細木 美智子








じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	
88～90号 (細木病院 副看護部長) 浜口 圭子	85～87号 (細木病院 検査技師長) 浜田 武	79～84号 (土佐看護専門 学校副校長) 田所 和子	73～78号 (細木病院 小児科部長) 浜田 義文	71～72号 (細木病院 22病棟棟長) 明神 美代子	69～70号 (細木病院 事務部長) 森 隆	67～68号 (細木病院 精神神経科長) 安蔵 英之輔	63～66号 (細木病院 神経科部長) 岡部 健一郎	59～62号 (三愛病院 事務部長) 浜田 育哉	55～58号 (細木病院 14病棟棟長) 田村 時子	49～54号 (細木病院 内科部長) 浜 聡

じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	じんせい	
121～123号 (細木病院 医局長) 松田 勇蔵	118～120号 (細木病院 看護部長) 棚田 秀子	115～117号 (細木病院 栄養管理課長) 松井 慶子	112～114号 (細木病院 1病棟棟長) 大井 淳	109～111号 (細木病院 事務部長) 山崎 利二	106～108号 (細木病院 薬剤科長) 福留 靖子	103～105号 (細木病院 庶務課長) 山崎 香	100～102号 (三愛病院 院長) 細木 靖弘	97～99号 (仁生会本部 企画管理部長) 岡林 昭雄	94～96号 (細木病院 放射線科部長) 仁尾 裕	91～93号 (土佐看護専門 学校副校長) 山本 章子

じんせい (野口 信) 155~157号 総編長	じんせい (中川 治) 152~154号 三愛病院 副院長	じんせい (松本 和博) 149~151号 (日高クリマク) 院長	じんせい (高坂 要一郎) 146~148号 (細木ユミイ病院) 院長	じんせい (喜多村 勇) 143~145号 (仁生会 顧問)	じんせい (瀬川 進) 140~142号 (麻酔科部長)	じんせい (浜田 国繁) 137~139号 (細木病院) 施設課長	じんせい (中屋 公子) 134~136号 (細木ユミイ病院) 総編長	じんせい (北村 宗生) 131~133号 (細木病院) 外科部長	じんせい (近沢 仁夫) 127~130号 (仁生会本部) 企画管理部長	じんせい (豊田 澄子) 124~126号 (三愛病院) 総編長
--------------------------------	-------------------------------------	---	---	--------------------------------------	------------------------------------	---	---	---	--	--

じんせい (岡村 久美) 188~190号 (細木病院) 医事課長	じんせい (渡辺 恵美子) 185~187号 (細木病院) 副総編長	じんせい (長尾 紀子) 182~184号 (三愛病院) 総編長	じんせい (高橋 秀幸) 179~181号 (海積善会) 常務取締役	じんせい (久 祥夫) 176~178号 (仁生会本部) 企画管理部長	じんせい (本吉 方子) 173~175号 (細木ユミイ病院) Uの病棟部長	じんせい (細木 秀美) 170~172号 (仁生会) 理事長	じんせい (細木 膺子) 167~169号 (仁生会) 本部長	じんせい (矢野 道恵) 164~166号 (日高クリマク) 婦長	じんせい (北岡 和雄) 161~163号 (細木病院) 整形外科部長	じんせい (山本 英二) 158~160号 (細木ユミイ病院) 事務部長
---	--	--	--	---	--	---------------------------------------	---------------------------------------	---	---	--

じんせい (山本 博司) 221~223号 (細木病院) 院長	じんせい (宮地 耕一郎) 218~220号 (仁生会本部) 企画管理部長	じんせい (矢田 美美子) 215~217号 (細木ユミイ病院) Uの病棟看護長	じんせい (柳生 和義) 212~214号 (細木病院) 事務部長	じんせい (河野 留美子) 209~211号 (三愛病院) 総編長	じんせい (吉本 毅) 206~208号 (仁生会本部) 財務部長	じんせい (弘井 正) 203~205号 (細木ユミイ病院) 精神科部長	じんせい (坂井 由美子) 200~202号 (細木病院) 臨床検査室長	じんせい (中村 倭子) 197~199号 (細木ユミイ病院) Uの病棟看護長	じんせい (坂本 義廣) 194~196号 (日高クリマク) 事務部長	じんせい (北川 隆夫) 191~193号 (細木病院) 内科部長
---------------------------------------	---	--	---	---	---	--	--	---	---	---

 <p>254～256号 岡本 眞知子 (細木ユニティ病院 看護部長)</p>	 <p>251～253号 岡村 久美 (細木病院 事務長)</p>	 <p>248～250号 小玉 肇 (三愛病院 副院長)</p>	 <p>245～247号 坂本 賢司 (三愛病院 副院長)</p>	 <p>242～244号 西内 清江 (土佐看護専門学校 教務主任)</p>	 <p>239～241号 野瀬 健史 (仁生会本部 財務部長)</p>	 <p>236～238号 棚田 秀子 (仁生会本部 人事部部長)</p>	 <p>233～235号 松本 和博 (日高クリニック 院長)</p>	 <p>230～232号 山崎 義一 (細木病院 病理診断医)</p>	 <p>227～229号 浜口 潔 (三愛病院 副院長)</p>	 <p>224～226号 仁尾 裕 (細木いなぶ クリニック 院長)</p>
--	--	---	--	---	--	---	--	--	---	---

じんせい
260～262号 岡村 富子(細木病院 在宅部長)

じんせい
257～259号 矢野 緑(細木ユニティ病院 薬剤管理室長)

じんせい
266～268号 橋本 浩三(細木病院 院長)

じんせい
263～265号 御荘 美知(三愛病院 臨床検査室室長)

じんせい
272～274号 深田 哲也(仁生会本部 企画管理部副部長)

じんせい
269～271号 永野 由美子(土佐看護専門学校 事務長)

じんせい
278～280号 山崎 浩子(細木ユニティ病院 看護部教育看護長)

じんせい
275～277号 福留 久年(ほそぎ東部クリニック 事務長)

じんせい
284～286号 門脇 弘幸(仁生会本部 財務部長)

じんせい
281～283号 豊島 正(三愛病院 事務長)

じんせい
290～292号 山本 泰朗(三愛病院 院長)

じんせい
287～289号 森下 精二(ほそぎ東部クリニック 事務長)

じんせい
296～298号 池田 久男(細木ユニティ病院 顧問)

じんせい
293～295号 梅木 美恵子(細木病院 南3病棟師長)

じんせい
299～300号 細木 秀美(仁生会 理事長)